

# 2013 県政この1年

## 応援来県、大物が次々

安倍晋三首相の経済政策「アベノミクス」の是非などが争点となった夏の参院選。自民新人と「非自民」の現職がしのぎを削った県選挙区は、全国的な注目区の一つとなった。

改選1議席をめぐり、立候補したのは自民新人の大沼瑞穂、共産新人の太田俊男、政治団体・幸福実現党新人の城取良太、みどりの風現職の舟山康江の4氏。実質的には大沼、舟山両氏による争いとなった。

元財団研究員の大沼氏は3年前に自民県連の公募に手を挙げたものの、国政選挙には初挑戦。知名度不足の課題を抱えていたが、安倍内閣への高い支持率と県内に広がる党の支持基盤をフル活用した。

### 重点区に党指定

しかし、当初、自民党の全国的な優勢が伝えられたこともあり、所属国会議員や県議、市町村議の後援会などの動きは低調に推移。党やマスコミ各社の世論調査では、思うように数字が伸びない。危機感を募らせた党は県選挙区を重点区に指定し、安倍首相ら閣僚、党役員らを次々に投入した。

さらに、これまでの選挙では協力関係にあり、県議や市町村議らとも関わりの強い県農協政治連盟が舟山氏を推薦。焦りの色を強めた党本部の農政関係幹部が県内JA幹

## 2 参院選、全国の注目区に



全国的な注目区となった夏の参院選県選挙区。大沼瑞穂氏が激戦を制し、初当選した＝山形市

部と面会したほか、県議や市町村議を中心にJA単位で切り崩しを図った。

舟山氏は環太平洋連携協定(TPP)参加反対を鮮明にし、県農政連の推薦を得て農家の獲得を図った。組織固めが遅れたが、5月下旬に民衆が支持を決定すると、社民、連合山形も支持を表明。支持基盤の多くが重なる吉村美栄子知事の後援会も一体的に動き、先行する大沼氏の追撃態勢に入った。

ただ、競り合いから抜け出す有効な策は見いだせず、結果的に自民党への追い風と厚い組織に支えられた大沼氏が、舟山氏を振り切った。

選挙終了後、日々、自民党県連から送られてきた大物政治家の来県日程を基に、運動

期間中の来県者を調べてみた。17日間で応援がなかったのは1日だけ。多い日は6人の国会議員が県内入りし、組織の引き締めを図った。

### 安倍首相は2度

顔触れも豪華だった。2度来県した安倍首相を筆頭に、石破茂幹事長、小泉進次郎衆院議員ら著名政治家が延べ44人。新人候補の当選を支えた。

衆参のねじれが解消され、自公による安定政権を確保して5カ月。特定秘密保護法案の成立をめぐる強引さも指摘され、ここに来て内閣支持率が急落している。国民の期待を背負って圧勝した与党の今後の政権運営から目が離せない。